

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520143

研究課題名(和文) 平曲伝承資料の基礎的研究

研究課題名(英文) A Fundamental Study on the Documents of the Transmission of the Heikyoku

研究代表者

鈴木 孝庸 (SUZUKI TAKATSUNE)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：90143742

研究成果の概要(和文): 本研究は、各地に所蔵されている文献資料を直接閲覧することと、平曲演奏家・橋本敏江氏に実際の平曲演奏に関する様々ことがらを聴取することを基礎とし、その上で、考察および資料紹介を行うことにしている。

以下、主要な研究成果を挙げることにする。

- (1) 平曲譜本に関しては、9所蔵機関を調査した。
- (2) 2種類の新出平曲譜本を入手した。
- (3) 6種類の平曲譜本の複写を入手した。
- (4) 尾崎家本『平家正節』のパソコン入力を完了した。
- (5) 宮崎文庫記念館蔵『平家物語』(平家吟譜)を影印刊行した。
- (6) 1種類の平曲指南書の複写を入手した。
- (7) 當道資料に関しては、5所蔵機関を調査した。
- (8) 1種類の新出當道資料を入手した。
- (9) 2種類の當道資料の複写を入手した。
- (10) 橋本敏江氏よりの「平物」に関する教授は終了し、特別な曲に入り、「読物」は終了した。

研究成果の概要(英文): This study is mainly planned to research on the documents of Heikyoku stored in many different libraries, and to examine the recitation of Heikyoku performed by HASHIMOTO Toshie, the professional Biwa player.

The outcome, including introducing new documents in this study is shown below.

- (1) In terms of the scores of Heikyoku, I researched at nine libraries.
- (2) Got two new scores of Heikyoku.
- (3) Got six copies of scores of Heikyoku.
- (4) Finished typing the Heike-Mabushi Ozaki-version in PC.
- (5) Published the Heike-Ginpu Miyazaki-Bunko-Memorial Library version.
- (6) Got a copy of manual for recitation of Heikyoku.
- (7) Researched five libraries for the documents of Blind Men's Guild.
- (8) Got a new document of Blind Men's Guild.
- (9) Got two copies of documents of Blind Men's Guild.
- (10) Completed Hiramono and Yomimono by HASHIMOTO's teaching.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	600,000	180,000	780,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：平家物語、平家琵琶、譜本、盲人資料、声、

1. 研究開始当初の背景

日本古典の所謂「散文」にある種の韻律が感じられることは、よく言われることであるが、能の詞章や浄瑠璃の詞章のように当初から「口頭」ないし「音楽」にのせることを意識して書かれたものはさておき、『平家物語』は「著述」と「口頭演説」とが複雑に交流した結果、さまざまな伝本が形成されたことと併せて散文韻文をとりまぜた独特の「音楽性をもった文章」を形成したのだという定評がある。数多くの評論家・研究者がそのことを述べてきたが、山田孝雄(岩波文庫『平家物語』「平家物語概説」)、五十嵐力(岩波講座日本文学『軍記物語研究』)、高木市之助(『古文藝の論』「軍記」)を代表的なものとしてあげることができる。とりわけ高木市之助は、黙読の中にも感得される音楽性を指摘し、琵琶法師の平曲(音楽)が『平家物語』の文学世界を支えていると論じたことなどは、特に注目すべきことである。

今日、『平家物語』の伝本は数多く残されており、また琵琶法師の平曲の伝統も晴眼者も加わりながら、譜本も数多く工夫され、演説もかろうじて現存する。

しかし、『平家物語』の本質に関わるものとして、平曲および平曲譜本の研究の必要性は、常に指摘・要請されてきたものの、十分に深められているとは言い難い。そのためには、平曲の実習と各種譜本の整理検討作業が不可欠である。

これまで、譜本の影印刊行も何種が行われ、奥村三雄氏『平曲譜本の研究』(昭和56年)、金田一春彦氏『平曲考』(平成9)、薦田治子氏『平家の音楽』(平成15)などの成果公刊があった。奥村氏は、譜本の整理が示されているが、扱っている点数がやや少なく、金田一氏は、譜本の整理を行っていない。薦田氏は、譜本に関する新知見が示されているが、判断基準等で私見と異なることが多い。また薦田氏は、名古屋の平曲を基に音楽的な考察を行ったが、名古屋に伝承された平曲は、盲人による伝承であることで貴重であるが、演説可能な句が全二百句のうちの八句にすぎないという点が惜しいところである。そして、三氏ともに、盲人の當道関係資料に対する関心は薄かった。

私の研究は、国文学的ないし平曲実地の立場からの譜本研究および當道資料研究であり、より総合的なものである。

私は、既に平曲を検討対象としながら、平家物語における「文学」と「音楽」の相関関係について考察を行い、研究書『平曲と平家物語』(平成19)を公刊している。この考察をさらに深める

ためにも、また将来の研究者のためにも、基礎的な資料調査の充実をはかることが、大切なことだと考えている。

2. 研究の目的

口誦文藝研究にとって、比較的よい条件・資料が得られる対象と判断して、平曲(平家物語の語り)を取り上げつつ、その伝承資料の整理を行うものである。

「平曲伝承資料」とは、大別して次の三種である。

- (イ) 平曲譜本
- (ロ) 平曲指南書
- (ハ) 當道資料(盲人資料)

3. 研究の方法

本研究は、上記の通り、「平曲伝承資料」の調査、整理を行うものである。

このための「方法」とは、

- 、「平曲」そのものをよく把握すること。
- 、文献資料の所在の調査・確認。
- 、文献資料の実物に関する調査。
- 、資料整理と考察。

である。

の「平曲」把握に関しては、平曲演奏家・橋本敏江氏に就いて、教授を受けて、約30年になる。このことによって、基本となる平曲譜本『平家正節』の墨譜の読み方に関する知識は、大略を伝受したと思われる。しかし、なお、微細な点や、藝能的な表現技藝に関わる奥深い点については、なお継続して、教えを受ける必要があると考えられる。

の所在の確認については、主に『國書總目録』『古典籍総合目録』などの情報をもとに、調査対象書目と所蔵機関を把握している。

(イ)の調査(実物についての書誌調査、墨譜に関する調査、本文に関する調査など)紙焼写真などの収集、整理を中心に計画している。現存の譜本のうち、公的機関の所蔵する譜本の調査は、大半終了している。しかし、未調査および精査の必要なおもな機関が、いくつもあり、本研究では、それらの調査を基本にし、主要資料の複写の入手、また古書として関連資料が出た場合に、(金額は廉価でなければ手が出ないが)出来るだけ入手するよう心がけている。

また、海外の所蔵機関にも関連資料がある。その一部は、予備調査的なものを行ったが、再調査も含めて、資料調査を行うことを計画している。

4. 研究成果

(1) 譜本に関する調査・研究

調査した所蔵機関

宮崎文庫記念館蔵平家物語、東京大学文学部国語研究室、名古屋市立博物館、京都市歴史資料館、思文閣、駒澤大学附属図書館、国文学研究資料館、内閣文庫、台湾大学図書館特蔵組、

() 調査譜本に関する成果

、この期間においてまず成果というべきは、宮崎文庫記念館蔵『平家物語』の影印刊行(平成 19)である。同書は、外題・内題ともに「平家物語」であるが、内実は、曲節名・墨譜の記された平曲譜本であり、私はその譜記が『平家吟譜』の墨譜であると判断した。『平家吟譜』は、断片の所在が報告されながらも、これまで、完本不明であった。『吟譜』に関する研究者でもある村上光徳氏とともに、影印を刊行した次第である。

、次に、名古屋市立博物館蔵平曲譜本は、横井也有自筆本である。也有本は、『平語』(昭和 52)が刊行されているが、『平家正節』周辺の譜本として、また前田流譜本の古い形を伝えるものとして貴重であり、名古屋市立博物館本は、『平語』を補う譜本として、重要な情報を持っている。

、京都市歴史資料館に寄託されている奥村家資料は、京都當道座の最後の総検校・奥村允懐一の所持資料を一括したもので、琵琶二面の他に貴重な當道資料や平曲譜本を多く含み、それらの紹介はすでに行われていたのであるが、このたび再調査の機会が与えられたところ、従来報告のなかった波多野流譜本の一揃いが出てきた。譜記の在り方などは、東大や京大、国会図書館蔵の波多野流譜本と大きな違いはないと考えられるが、細部に他本と異なる特徴がある。なお、古書肆・思文閣の目録に出た波多野流譜本は、この奥村家譜本と同じ傾向をもつようである。

、駒澤大学附属図書館に新たに収められることになった前田流譜本は、富倉徳次郎旧蔵本だが、収録句数は少ないものの、譜記が、『吟譜』に似たところがあるものの、『吟譜』とは異なる符号が多く、もちろん『正節』や、昭和女子大本、または横井也有『平語』とも異なるように考えられる。今後精査すべき譜本である。

、国文学研究資料館蔵『平家正節』は、『正節』の一揃いとして貴重であるばかりでなく、平曲伝授に関わる記事等も含む貴重なものであることが分かった。

尾崎家本や東大・青洲文庫本とならんで、『正節』を考える時の重要な伝本とすることができるだろう。

譜本の入手

『平曲』(2冊,11句。豊川本系譜本)

『正節卷舒卷(平家正節灌頂卷)』(1冊5句)

() 入手譜本について

、豊川本系譜本は、すでに私も影印本刊行に関与したことがある早稲田大学演劇博物館蔵の二十四冊本で、全貌の基本を知ることができるが、現存の伝本は、『正節』や波多野流譜本に比べると、はるかに少ない。このたび、「豊川」という記述はないものの、その系統の譜記と判断できる譜本を入手することができたのは僥倖というべきであろう。

、『平家正節』の「灌頂卷」一冊を入手したのだが、装幀等から判断して、特別扱いの曲であることにふさわしい造本である。『正節』一揃いの中から独立したものかどうかは不明である。外題「卷舒卷」は、「かんじょのまき」とでも読ませたものであろうか。「灌頂卷」(かんじょのまき)を、音を通して書名として文字に定着させたことが推測される。興味深い外題である。

複写・撮影等による譜本の入手

東京大学文学部国語研究室蔵『平家物語語り本』(波多野流譜本)、名古屋市立博物館蔵横井也有旧蔵譜本、京都市歴史資料館管理・奥村家蔵平曲譜本(波多野流譜本)、駒澤大学附属図書館蔵『前田流平曲』(富倉徳次郎旧蔵本)、国文学研究資料館蔵『平家正節』、豊橋市中央図書館蔵『平家正節』

() 複写入手の譜本について

この項は、()と連動するわけだが、今期を通して、痛感したのは、『平家正節』や波多野流譜本という、もっとも点数の多い伝本について、従来は、基本的な伝本は、影印で刊行されているため、同類の譜本は、大づかみにしか見ない傾向にあった。しかし、荻野検校顕彰会の要請等もあり、同類本とあっても丁寧に比較すると、譜記の工夫や譜本の伝来等の歴史がうかがえるように考えられるようになった。やはりひとつひとつの譜本を丹念に見ることが必要だということである。

平曲譜本のテキスト入力および写譜
尾崎家本『平家正節』全巻全句について、

パソコン入力を完了、印刷媒体に手書きによる写譜も全句完了した。

()

平家物語の本文(ことば)と音楽の関係を文学論として考察するについては、譜本そのものの本文(ことば)と曲節および譜記が、見やすく整理されていることが、考察の進展の大きな助けとなる。

そのための手始めに、尾崎家本『平家正節』の翻刻を行っていたのだが、まずは、本文と曲節については、入力を完了した。墨譜に関しては、西川勉氏作成の墨譜外字を使用して、いくつかの「句」の入力作業は行った。

入力済みの尾崎家本『平家正節』は、いずれ紙媒体の印刷物として、関係研究者に配布したいと考えている。

(2) 平曲指南書に関する調査・研究

東京大学文学部国語研究室蔵『平曲秘書』、奥村家文書『勘要鈔』、天理図書館蔵『平曲雑記』、国会図書館蔵『平語偶談』、静嘉堂文庫蔵『追増平語偶談』

() 平曲指南書について

平曲伝承資料の中では、この方面の資料がもっとも少ない。今期の知見は以下の通りである。

、東京大学文学部国語研究室蔵『平曲秘書』と奥村家蔵『勘要鈔』がほぼ同一の書であることが判明した。

、天理図書館蔵『平曲雑記』の複写を入手し、検討を行った。

佐佐木信綱旧蔵のこの書は、富倉徳次郎『平家物語全注釈』に「読物」の「よみ」を解説した部分が引用紹介されたことで知られている。しかし、当該箇所は、本居宣長の『古事記伝』からの引用で「読む」に関する解説ではあるが、平曲の「読み」に関するものではないことが分かった。しかし、『平曲雑記』は、ほかにも興味深い記述が多いと考えられる。今後大いに検討すべき書である。

、国会図書館蔵『平語偶談』と静嘉堂文庫蔵『追増平語偶談』との比較を行った。

『追増平語偶談』は、古典文庫に翻刻が収められていて、平曲指南書として重要な書である。「追増」の前段階が『平語偶談』であり、比較によって進展ぶりを検討した。その要点は、『平家物語大事典』(平成 22、東京書籍)の項目「追増平語偶談」に述べた。

(3) 當道資料に関する調査・研究
調査した所蔵機関

神戸女子大学森修文庫、京都市歴史資料館、國學院大學文学部松尾葦江研究室、国会図書館、イェール大学スターリング記念図書館、

當道資料の入手
『當道略記』(1軸)

複写・撮影等による當道資料の入手
神戸女子大学森修文庫蔵『古式目』、国会図書館蔵『妙音講縁起』

(3) () 當道資料の検討または検討による展開に関して

、『當道略記』に関しては、某氏所蔵本との対校を行い、その結果を報告した。

、『妙音講縁起』は、地方の當道組織との関連のあった文書と考えられるが、『平家物語』との関係を明記しない点で、特異な書というべきであろう。これについては、架蔵本と国会図書館本をもとにして検討し、架蔵本の影印紹介を付した。

、『古式目』などの検校系圖の記述によれば、従来「じょいち」と読まれて「城一」とも関係するかと考えられてきた「如一」が、「によいち」と読むべきことがわかった。このことにより、當道の初期の系譜が訂正でき、また、ある時点で一方・八坂の主流交代が想像できそうなことなども分かった。これらは、『平家物語大事典』(東京書籍刊)の項目解説に盛り込んだ。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計13件)

鈴木孝庸、「声の伝承・声の記号化 『平家吟譜』から『平家正節』へ」、新潟大学「人文科学研究」、査読無、128 輯、2011年、1-19 頁、

鈴木孝庸、「中院本平家物語の句切り点について」、今井・千明 編『校訂 中院本平家物語(下)』(三弥井書店刊)、査読無、2011年、387-397 頁、

Takatsune SUZUKI、「Imaging “Ima-yo” from Hei-kyoku」、「Voix et Modernites」(Actes du colloque international du 15-16 mars 2010, Universite Bordeaux)、査読無、2011年、157-163 頁、

鈴木孝庸、「平曲譜本としての特色」、荻野検校顕彰会 編「DVD 版 尾崎家本 平

家正節 解説書」、査読無、2011年、5-11頁、

鈴木孝庸、「源平闘争録の曲節指示とおぼしき注記について」、「新潟大学国語国文学会誌」、査読無、52号、2010年、54-65頁、

鈴木孝庸、「ことばの伝承・声の伝承 平曲の 小秘事 を中心に」、「高木裕 編 『声 とテキストの射程』(知泉書館刊)、査読無、2010年、231-263頁、

鈴木孝庸、「新出資料・個人蔵『当道略記』」、「松尾・吉田 編『平成二十一年度 國學院 大學文学部 共同研究報告』、査読無、2010年、106-109頁、

鈴木孝庸、「當道の『妙音講縁起』 解題と翻字・影印」、「新潟大学『人文科学研究』、査読無、126輯、2010年、1-26頁

鈴木孝庸、「平曲と今様」、「新潟大学国語国文学会誌」、査読無、51号、2009年、38-44頁、

鈴木孝庸、「祇園精舎語りの秘曲性 付 山口県立山口図書館蔵『小秘事』影印」、「新潟大学『人文科学研究』、査読無、124輯、2009年、1-48頁、

鈴木孝庸、「平曲譜本の諸本と平家正節」、「遠山一郎 研究代表 科研費基盤研究(S) 研究成果報告書『平家正節』盲人伝承八句 ～ライブ映像と検索～」、査読無、2009年、5-16頁、

鈴木孝庸、「平曲 読物 のテキストと墨譜」、「新潟大学『人文科学研究』、査読無、122輯、2008年、1-31頁、

鈴木孝庸、「腰越状作文まで」、「小林保治 監修『中世文学の回廊』(勉誠出版刊)、査読無、2008年、241-250頁、

〔学会発表〕(計4件)

Takatsune SUZUKI、L'Epopée japonaise et la recitation, l'exécution de Biwa、Colloque International : La Voix et la Modernité、16 mars 2010、Université Bordeaux

鈴木孝庸、「平曲の秘曲におけるテキストと音楽」、「シンポジウム『声とテキスト論』、2009年3月21日、新潟大学、

鈴木孝庸、「平曲譜本の諸本と平家正節」、

「平曲譜本の世界 講演と演奏映像試写」、2008年11月29日、愛知県立大学、

鈴木孝庸、「『平家物語』の『不思議』」、「漢陽大学校新潟大学国際学術セミナー、2008年10月18日、新潟大学、

〔図書〕(計2件)

鈴木孝庸・楊夫高、新大人文選書5『平家物語と不思議』(高志書院刊)、2009年、総頁180頁(このうち6-32、161-170頁、図版解説、全体的な調整担当)

村上光徳・鈴木孝庸 編、瑞木書房刊、『平家吟譜 宮崎文庫記念館蔵平家物語』、2007年、総頁520頁(このうち影印部(全487頁)の原版点検、校正担当。および解説(497-518頁)担当)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 孝庸 (SUZUKI TAKATSUNE)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：90143742

(2) 研究分担者 なし

()

研究者番号：

(3)連携研究者 なし
()

研究者番号：